

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 貿易統計(2007年10月)

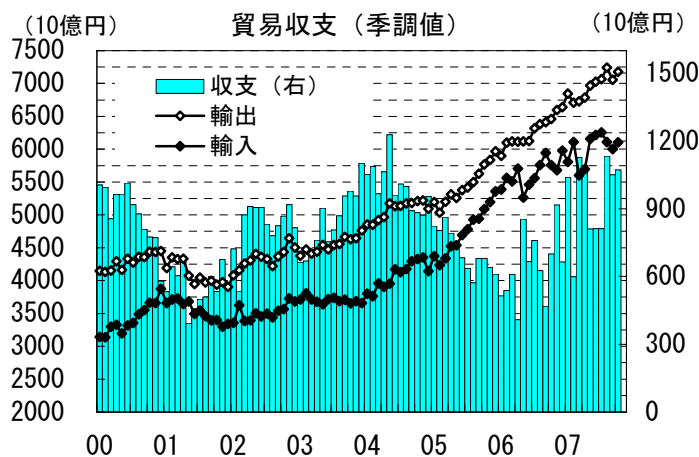
発表日2007年11月21日(水)

～世界経済の好調を背景に輸出は高い伸びを維持～

第一生命経済研究所 経済調査部

担当 副主任エコノミスト 柵山 順子

TEL : 03-5221-4548



(10億円)	季調値			原数値
	貿易収支	輸出	輸入	貿易収支
06年10月	700	6458	5758	613
11月	917	6595	5678	908
12月	664	6642	5978	1110
07年1月	1039	6846	5806	-3
2月	599	6708	6110	975
3月	1128	6730	5603	1628
4月	1093	6785	5692	921
5月	811	6970	6159	383
6月	811	7028	6216	1220
7月	812	7067	6255	661
8月	1132	7241	6108	734
9月	1051	7054	6003	1636
10月	1073	7179	6106	1019

(出所: 貿易統計・財務省)

(前年比、%)

	輸出金額	輸出価格	輸出数量指数				輸入金額	輸入価格	輸入数量指数			
			全体	対米	対EU	対アジア			全体	対米	対EU	対アジア
06年10月	11.6	9.7	1.7	10.3	▲ 1.3	6.7	17.5	8.8	8.0	19.7	4.3	12.3
11月	12.1	7.8	4.0	7.4	▲ 3.2	6.1	7.6	5.0	2.4	5.3	▲ 6.6	6.0
12月	9.8	5.3	4.2	6.7	▲ 2.6	8.4	7.8	3.2	4.4	▲ 10.6	8.7	7.2
07年1月	19.0	9.4	8.8	0.7	▲ 4.8	23.0	10.3	10.4	▲ 0.1	15.8	0.5	0.2
2月	9.7	11.1	▲ 1.3	1.7	▲ 0.4	2.5	10.2	2.2	7.9	3.8	4.3	16.5
3月	10.3	9.6	0.6	▲ 4.2	▲ 3.7	7.4	0.2	7.3	▲ 6.7	8.8	0.6	▲ 13.0
4月	8.2	7.8	0.4	▲ 13.1	6.6	7.0	3.5	10.3	▲ 6.1	21.2	▲ 0.5	▲ 4.7
5月	15.1	8.4	6.2	▲ 13.2	8.8	12.1	15.6	14.5	0.9	12.5	8.8	2.2
6月	16.2	9.7	5.9	▲ 8.3	7.8	13.4	10.8	17.3	▲ 5.5	▲ 4.4	5.0	▲ 5.2
7月	11.8	9.0	2.5	▲ 10.4	2.6	10.6	17.1	17.1	▲ 0.0	6.1	15.1	1.3
8月	14.5	5.8	8.2	▲ 5.2	4.6	13.1	5.8	12.0	▲ 5.6	▲ 10.7	▲ 0.3	▲ 5.1
9月	6.5	▲ 0.0	6.5	▲ 11.9	9.7	7.5	▲ 3.2	6.3	▲ 8.9	▲ 7.7	0.4	▲ 11.1
10月	13.9	▲ 0.8	14.9	▲ 3.3	21.5	14.6	8.6	11.2	▲ 2.4	6.9	7.0	▲ 2.1

○10月の貿易黒字額は3ヶ月連続で拡大

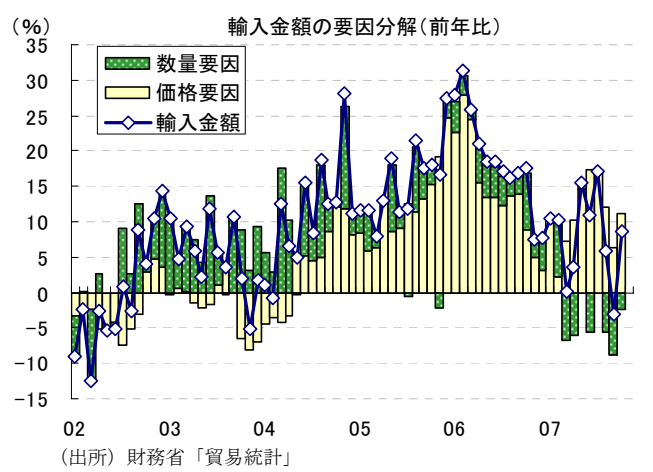
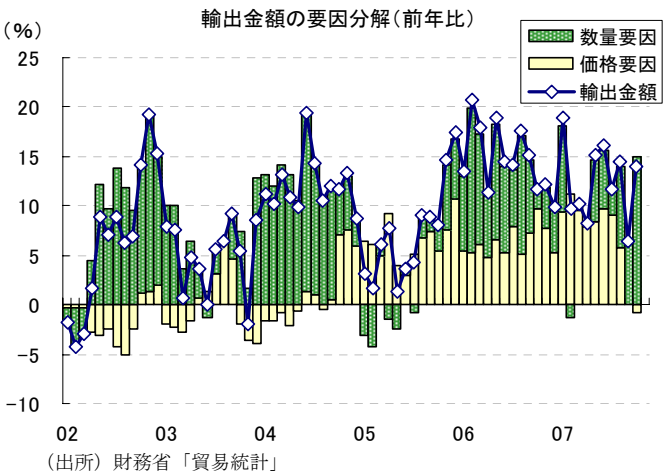
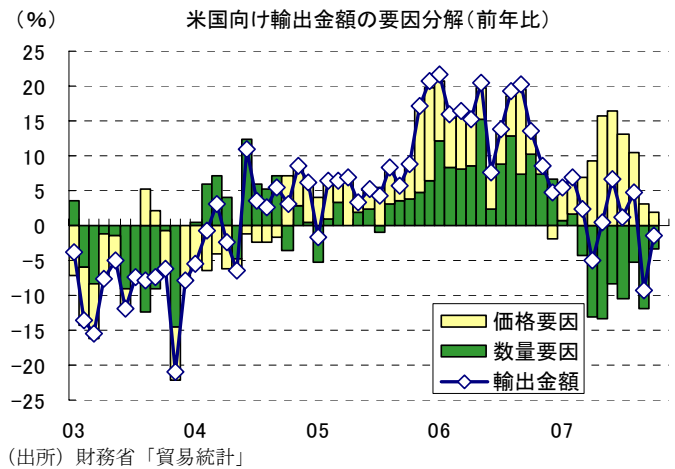
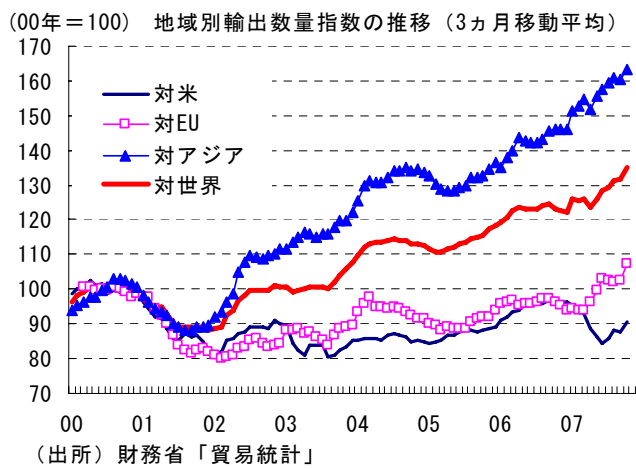
10月の貿易収支は1兆186億円(原数値)、前年比+66.1%と3ヶ月連続で増加した。輸出金額をみると、自動車や通信機などで米国向けのマイナス幅が縮小したことに加えてEU向けやアジア向けが好調だったため、輸出全体では前年比+13.9%(前月同+6.5%)と2ヶ月ぶりの二桁の伸びとなった。アジア、EU向け輸出の高い伸びが米国向けの落ち込みを下支えする構図が続いている。一方、輸入金額をみると、価格が高騰した原粗油輸入などの拡大を背景に前年比+8.6%(前月同▲3.2%)と2ヶ月ぶりにプラスの伸びとなった。世界経済の拡大を背景に輸出が高い伸びを持続する一方で、内需低迷などの影響で輸入では弱めの推移が続いているため、引き続き黒字額は前年を大きく上回っている。

○10-12月期の輸出は好スタート

数量ベースの輸出は前年比+14.9%(前月同+6.5%)と高い伸びになった。7-9月期対比でも、

10月は+3.3%（当社で季節調整）と非常に高い伸びになっており、世界経済の拡大を背景に輸出は好調さが続いているといえる。7-9月期の輸出は米国製造業部門の持ち直しや新興国経済の好調持続などを背景に回復感が強まり、GDP成長率を大きく押し上げた。10-12月期にはその反動が懸念されたが、まずは好スタートを切ったといえるだろう。10月時点では、米景気減速の影響は顕在化していない。

地域別（数量ベース）にみると、米国向け（前年比▲3.3%←前月同▲11.9%）は、大きく落ち込んだ前月の反動もあって自動車輸出が持ち直したため、マイナス幅が縮小した。このところ振れが大きくなっているが、均してみると依然弱めではあるものの回復傾向がつづいているといえる。一方、アジア向け（前年比+14.6%←前月同+7.5%）は休日が多かった影響などで伸びが鈍化した前月から再び伸びが高まっている。さらに、EU向け（同+21.5%←前月同+9.7%）は建設機械や輸送機器の高い伸びが続いたことに加えて、船舶が急拡大した結果、非常に高い伸びとなった。米国景気は弱めの推移となっているものの、世界経済全体で見れば高成長が続いていることを背景に、輸出はアジア、EU向けなどを牽引役に高い伸びが続いている。



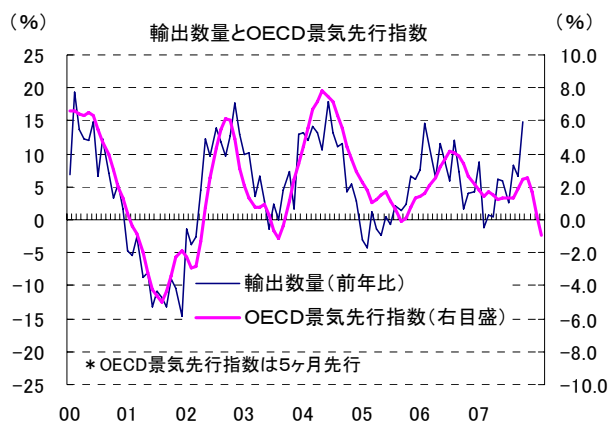
○新興国経済に支えられ、輸出の拡大基調は続く

輸出の先行きについて展望すれば、不安材料が多い。米国景気については、住宅部門の調整に加えて、原油価格の高騰を背景に消費の伸びが鈍化しており、景気下振れリスクが強まっている。欧州景気についても、このところ企業マインドなどを中心に弱めの指標が目立つなど、先行き不透明感が出てきている。さらに、米国ISM製造業指数やOECD景気先行指数などの先行指標が足元で悪化していることも輸出の先行きに

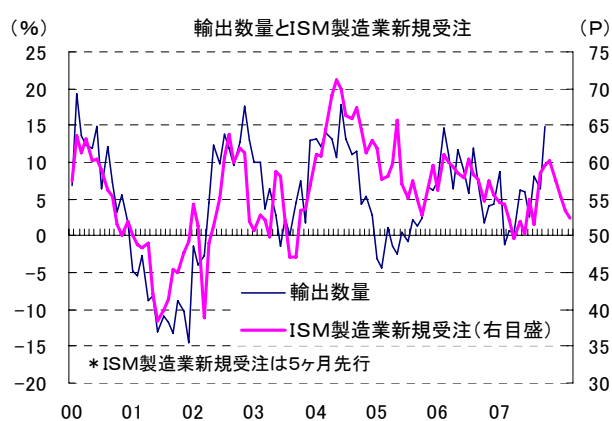
本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

対する懸念材料である。10月に好スタートをきったことで、10-12月期の輸出が当初想定されていたほどは減速しない可能性も出てきたが、先行きには十分に注意が必要な状況に変わりはない。

ただし、米国経済については、利下げ余地が十分にあり、FRBの迅速な対応が期待できることなどを勘案すると、急失速や長期にわたる低迷は避けられると考える。欧州経済についても、消費の回復感が強まっており、短期的な調整にとどまる可能性が高い。だとすれば、新興国経済への悪影響は限定的なものに留まり、新興国景気は好調さが続くだろう。このため、世界経済全体で見れば緩やかな拡大が続き、輸出の拡大基調が崩れることはないと予想する。



(出所) 財務省「貿易統計」、OECD



(出所) 財務省「貿易統計」、ISM